



今月の農家さん

『自然』と『人』とともにある農業

守山市水保町
川口 廣治さん (75才)



川口さんの
野菜の目印
です

農業を始めておよそ15年の川口さん。
北海道北見市で生まれ上京し、勤務地が東京から大阪に変わったと同時に、守山市に家を購入。しかし2年半で東京に転勤となり、その後は東京でサラリーマン生活をされました。
定年後、24年ぶりに自然豊かで暮らしやすかった守山市に戻り、今浜町で農業をスタート。
6年前からおうみんちに出荷され、ラディッシュやトマトの試食販売のほか、空芯菜やワサビ菜などの対面販売もされています。
親切的な今浜町の自治会長や各組合長の方々と交流を深め、畑を借り、野菜の作り方も教わったという川口さん。

始めて間もない頃は、これまでの家庭菜園と農業の違いに少し戸惑うこともあったそうです。

「野菜は土づくりから」をモットーに、肥料には山から集めた落ち葉や米ぬかなどを使って作った発酵有機堆肥を使用。また、農業に代わる虫よけとして、鷹の爪を使った液や食酢を薄めたものを使用するなど、環境に配慮しながらの手間暇かけた農業がこだわりです。

川口さんは「他の誰かと違うことができる楽しさが農業の魅力だと思います。これからも自然とともに、人との関わりやつながりを大切にしながら農業をやっていきたいです」と話してくださいました。

営農情報

■代かき作業

代かき作業は、田植え前に水田に水を入れて土塊を砕く作業です。

代かきは

- ① ほ場を均平化する
- ② 雑草の種を埋め込み、雑草の発生を抑制する
- ③ ほ場の水持ちを良くする
- ④ 除草剤の効果を長持ちさせる
- ⑤ 田植えを容易にし、苗を活着しやすくする
- ⑥ ワラや雑草を埋め込む

などの効果がある大切な作業です。均平がうまくいかないと、もりあがった部分では除草剤の効果が低くなったり、へこんだ部分では田植え時に苗が浮いてしまったりします。また、落水が思い通りにいかないこともあります。

作業のコツとして、代かき前の入水量が多すぎるとほ場の高低が分かりにくくなり、ワラ等の有機物のすき込みが難しくなりますので、浅く水を張ります。

また、濁水の発生を削減するためにも浅水状態で作業を行うようにしましょう。

また、田植え機が走行するルートに対して平行か垂直に作業することも大切です。その際、事前にほ場の高低を把握しておき、でき



るだけほ場の高いところから低いところへ進行するようにすると均平化がしやすくなります。
また、代かきを短時間に効率よく実施するためには、作業前にほ場の状態を整えておくことも大切です。事前に雑草をすき込み砕土しておくことや、畦畔に接するほ場の周囲部分を水位よりも深く掘っておきましょう。